

美濃市都市計画マスタープラン

別冊 現況（地域別）編

令和6年7月

美 濃 市

目 次

第1章 地域区分	1
1. 地域区分の設定.....	1
2. 地域別人口・世帯数	2
第2章 南部地域	4
1. 地域の現況.....	4
2. 地域の特性と課題.....	9
第3章 西南部地域.....	10
1. 地域の現況.....	10
2. 地域の特性と課題.....	15
第4章 北部地域	16
1. 地域の現況.....	16
2. 地域の特性と課題.....	21

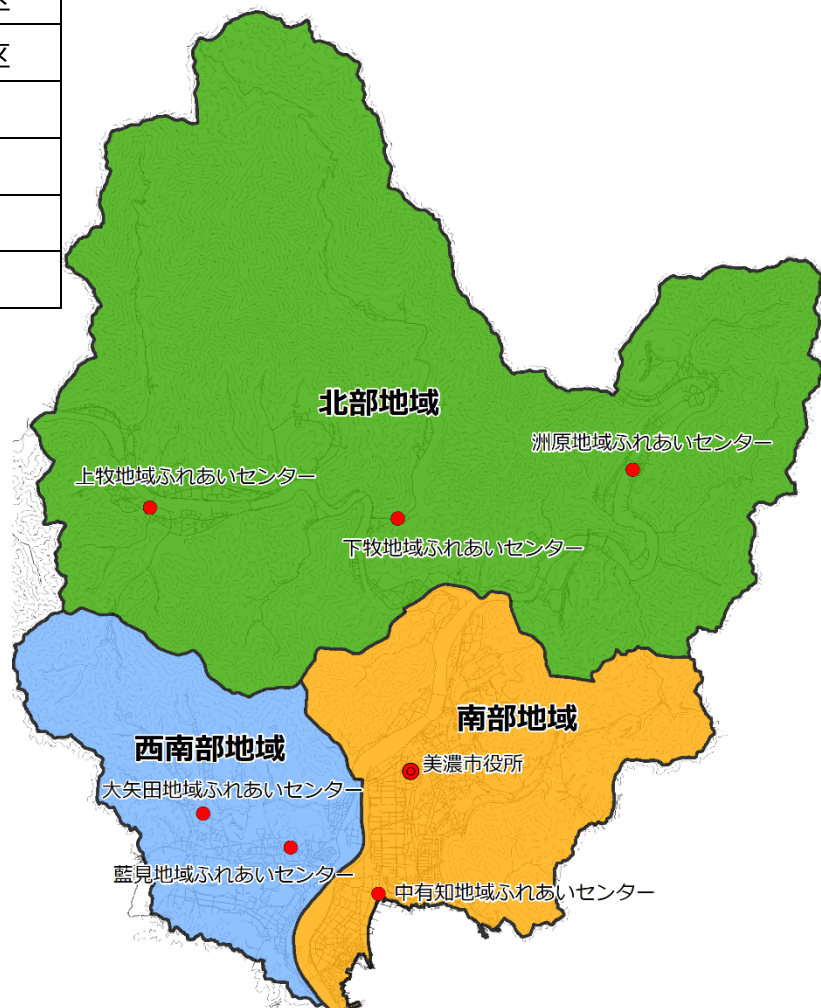
第1章 地域区分

1. 地域区分の設定

地域別構想における地域区分は、地域のまとまりや市街化の状況などを考慮して、「南部地域」「西南部地域」「北部地域」の3地域とします。

南部地域は、長良川左岸の平坦部を中心とする美濃地区と中有知地区で構成され、中心市街地や美濃インターチェンジ周辺など市街化が進む地域です。西南部地域は、長良川右岸の大矢田地区と藍見地区で構成され、藍川団地やもみじが丘など良好な住宅地や、美濃テクノパークなどの工業地が集積する地域です。北部地域は、長良川や板取川流域の洲原地区、下牧地区、上牧地区で構成され、鶴形山や片知渓谷など本市の中でも特に優れた自然環境に恵まれた地域です。

地域区分	構成地区
南部地域	美濃地区
	中有知地区
西南部地域	大矢田地区
	藍見地区
北部地域	洲原地区
	下牧地区
	上牧地区



2. 地域別人口・世帯数

地域別の人口・世帯数について、平成 22 年（2010）から令和 2 年（2020）の推移をみると、人口は各地域とも減少が続いていますが、北部地域で減少割合が非常に高くなっています。また、世帯数は、南部地域、北部地域では減少していますが、西南部地域では増加が続いています。

地域別の年齢別人口をみると、平成 22 年（2010）から令和 2 年（2020）にかけて各地域とも 65 歳以上人口の割合が大きくなり増加しています。北部地域で特に増加の割合が高く、平成 22 年（2010）の 34.1%から 10%以上増加し、令和 2 年（2020）には 46.1%と非常に高い割合となっています。

表 地域別人口・世帯数の推移及び年齢 3 区分別人口割合の推移

地域区分		南部地域	西南部地域	北部地域	市全体	
平成 22 年人口	(人)	11,636	4,868	6,125	22,629	
平成 27 年人口	(人)	10,833	4,617	5,310	20,760	
令和 2 年人口	(人)	10,067	4,442	4,738	19,247	
平成 22 年～令和 2 年人口増減率	(%)	-13.5	-8.8	-22.6	-14.9	
平成 22 年世帯数	(世帯)	4,126	1,610	2,007	7,743	
平成 27 年世帯数	(世帯)	3,991	1,625	1,892	7,508	
令和 2 年世帯数	(世帯)	3,945	1,725	1,782	7,452	
平成 22 年～令和 2 年世帯数増減率	(%)	-4.4	7.1	-11.2	-3.8	
平成 22 年世帯あたり人員	(人/世帯)	2.82	3.02	3.05	2.92	
平成 27 年世帯あたり人員	(人/世帯)	2.71	2.84	2.81	2.77	
令和 2 年世帯あたり人員	(人/世帯)	2.55	2.58	2.66	2.58	
平成 22 年年齢別人口※	15 歳未満	(人)	1,483	646	471	2,600
	15～64 歳	(人)	7,050	3,171	3,568	13,789
	65 歳以上	(人)	3,103	1,051	2,086	6,240
平成 22 年年齢別構成比※	15 歳未満	(%)	12.7	13.3	7.7	11.5
	15～64 歳	(%)	60.6	65.1	58.3	60.9
	65 歳以上	(%)	26.7	21.6	34.1	27.6
平成 27 年年齢別人口※	15 歳未満	(人)	1,345	587	418	2,350
	15～64 歳	(人)	6,179	2,790	2,820	11,789
	65 歳以上	(人)	3,303	1,234	2,071	6,608
平成 27 年年齢別構成比※	15 歳未満	(%)	12.4	12.7	7.9	11.3
	15～64 歳	(%)	57.1	60.5	53.1	56.8
	65 歳以上	(%)	30.5	26.8	39.0	31.9
令和 2 年年齢別人口※	15 歳未満	(人)	1,205	532	375	2,112
	15～64 歳	(人)	5,457	2,488	2,176	10,121
	65 歳以上	(人)	3,378	1,414	2,181	6,973
令和 2 年年齢別構成比※	15 歳未満	(%)	12.0	12.0	7.9	11.0
	15～64 歳	(%)	54.4	56.1	46.0	52.7
	65 歳以上	(%)	33.6	31.9	46.1	36.3

※年齢不詳除く

資料：国勢調査

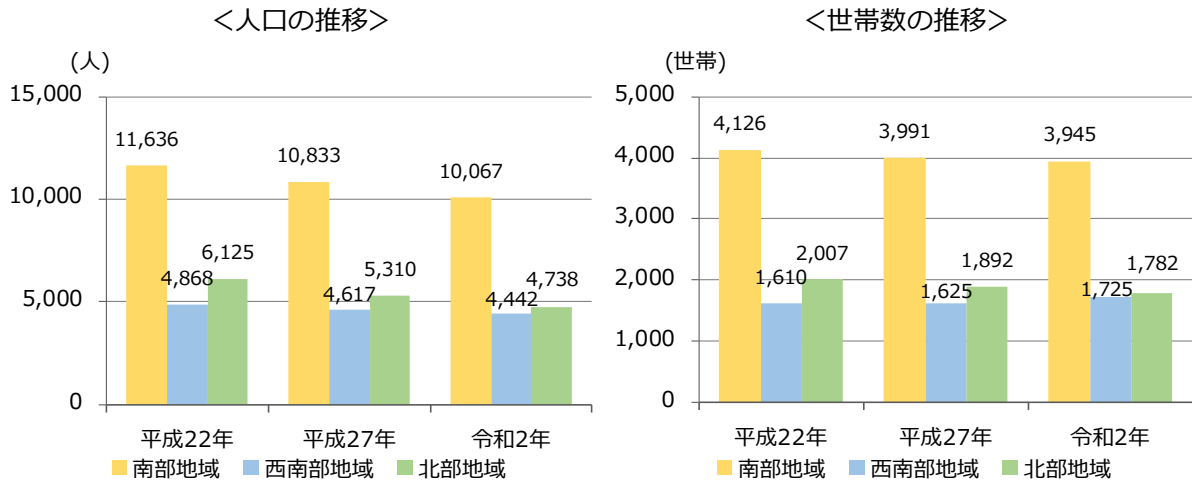


図 地域別人口・世帯数の推移（平成22年～令和2年）

資料：国勢調査

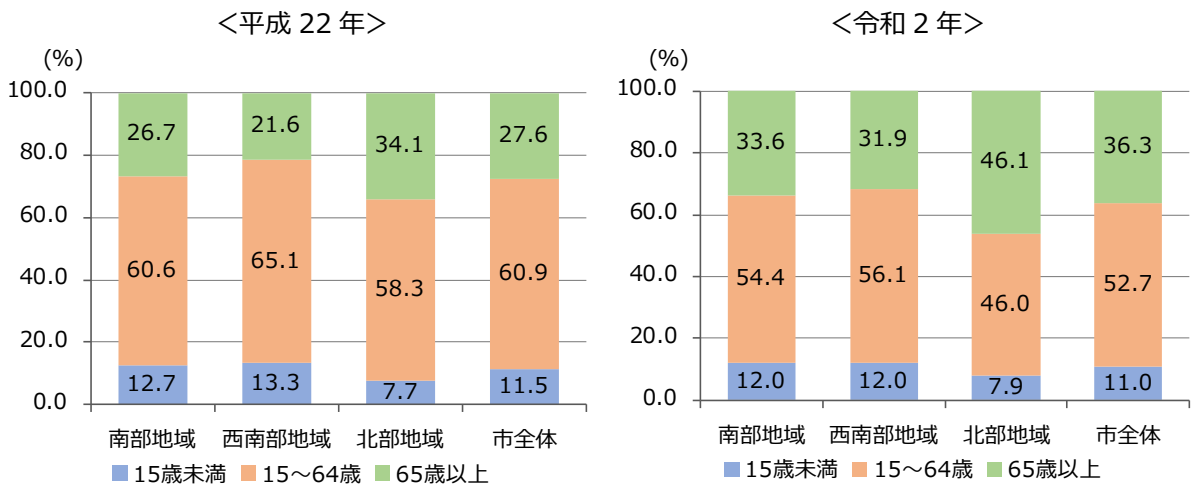


図 地域別年齢3区分別人口割合の推移（平成22年・令和2年）

資料：国勢調査

第2章 南部地域

1. 地域の現況

南部地域は市の南東部に位置し、美濃地区と中有知地区で構成されます。地域面積は2,129ha で市全体の約18%を占めます。

地域のほぼ中央にうだつの上がる町並みを核とする中心市街地が形成され、美濃市役所をはじめ、公共公益施設も多く立地し、本市の中心的な地域となっています。

(1) 人口・世帯数

地域内の人口は、減少傾向が続いており、令和2年（2020）には約1万人まで減少しています。高齢化率は、市全体に比べ低いですが、本地域でも高齢化が進行しています。

表 南部地域の人口・世帯数の推移及び年齢3区分別人口割合の推移

		平成22年	平成27年	令和2年
人口（人）		11,636	10,833	10,067
世帯数（世帯）		4,126	3,991	3,945
世帯あたり人員（人／世帯）		2.82	2.71	2.55
年齢3区分別人口（人）	～14歳	1,483	1,345	1,205
	15～64歳	7,050	6,179	5,457
	65歳～	3,103	3,303	3,378
	年齢不詳	0	6	27
年齢3区分別人口構成比（％） ※年齢不詳除く	～14歳	12.7	12.4	12.0
	15～64歳	60.6	57.1	54.4
	65歳～	26.7	30.5	33.6

資料：国勢調査

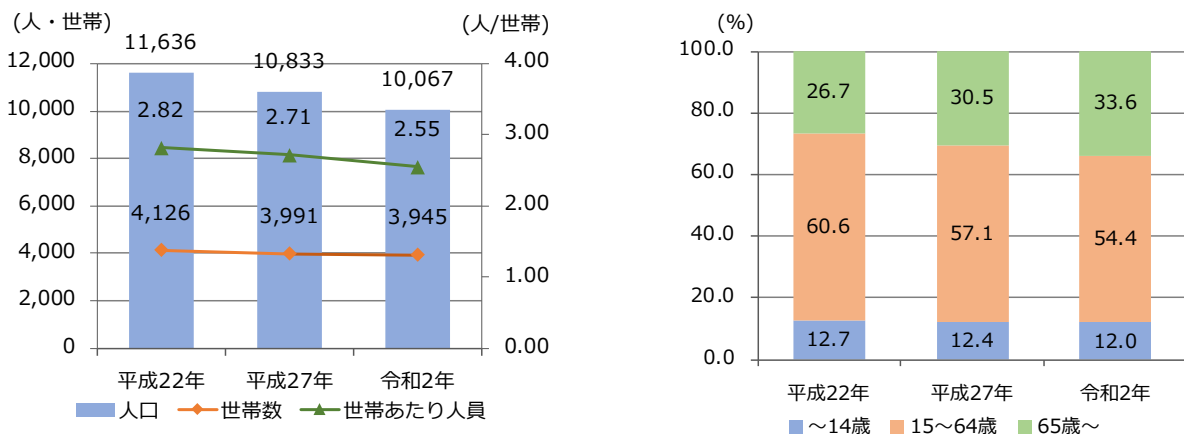


図 南部地域の人口・世帯数の推移及び年齢3区分別人口割合の推移

資料：国勢調査

(2) 土地利用

本地域の土地利用の状況をみると、山林が半数以上を占め、農地や水面などを合わせた自然的土地利用は、地域全体の 80% 近くを占めています。農地は、長良川沿いの中央地区や生楡地区において一団の優良水田を形成しています。山林は、古城山や松鞍山など、地域東部に広がっています。

都市的土地利用は、宅地等が地域全体の約 13% で、中心市街地周辺部や関市にかけての平坦部に良好な住宅地が形成されています。商業地は、中心市街地や(都) 岐阜高岡線〔(国)156 号〕の沿道のほか新市街地として整備が進む美濃インターチェンジの周辺部に見られます。

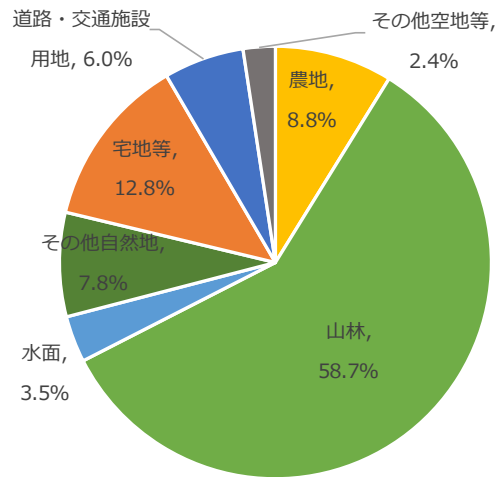


図 南部地域の土地利用面積の割合
資料：令和 5 年度都市計画基礎調査



資料：令和 5 年度都市計画基礎調査

(3) 主要施設

都市施設については、東海北陸自動車道や(都)岐阜高岡線〔(国)156号〕などの広域交通軸が地域を南北に通過し、(都)高富美濃線〔(主)岐阜美濃線〕や(都)広岡吉川線〔(主)美濃川辺線〕、(都)段西洞線〔(市)段・西洞線〕などの地域交通軸が東西を結びます。また、基幹公園となる運動公園や小倉公園が本地域に整備されているほか、市役所、病院、学校、図書館、公民館などの公共施設が中心市街地やその周辺部に配置されています。

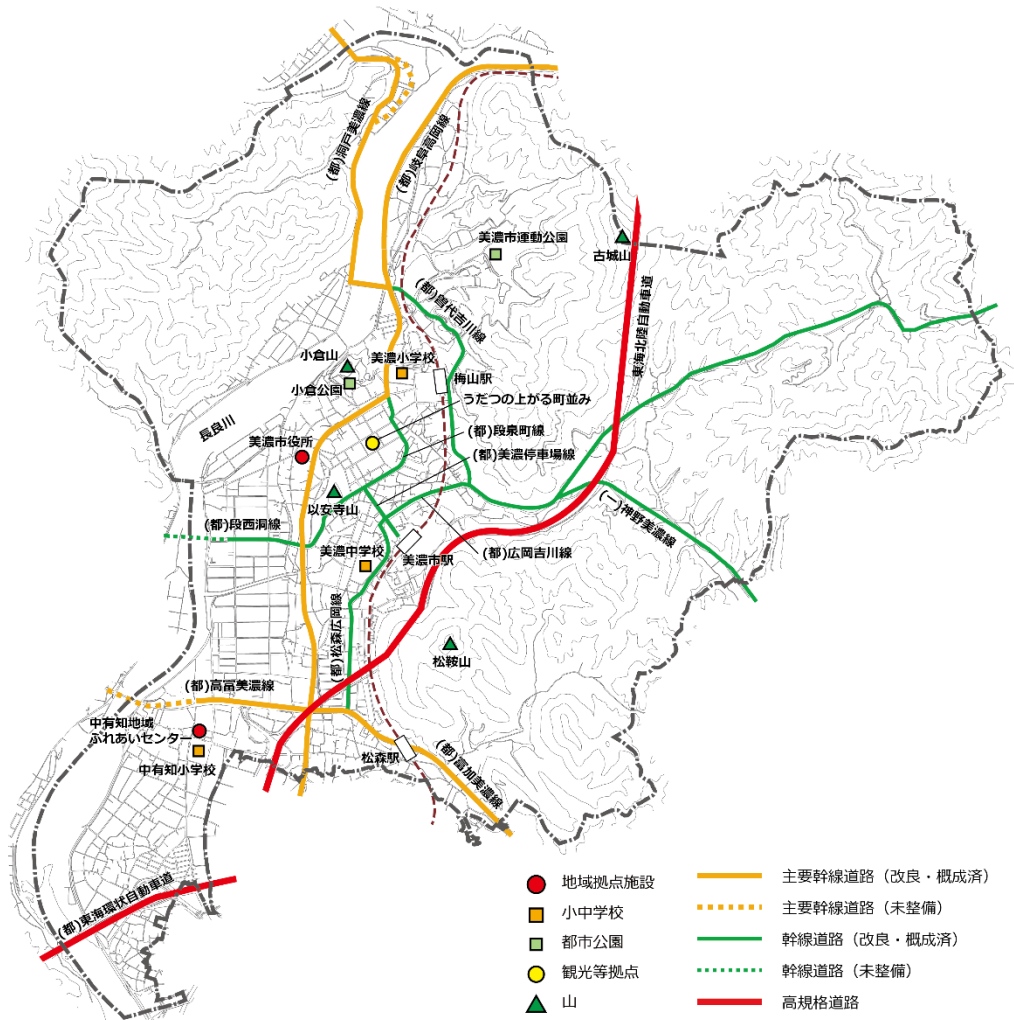


図 南部地域の主要施設

(4) 市民意向

南部地域の生活環境の満足度をみると、「自然の豊かさ」や「下水道などし尿処理の方法」など、居住環境に関する項目が比較的高くなっています。逆に、「バス等の公共交通の便利さ」や「スポーツ施設の充実度」など、交通環境や施設の利便性などで満足度の低い項目がみられます。

生活環境の重要度では、防災・防犯対策に関する項目が高いほか、「医療施設（病院・医院等）の利用のしやすさ」や「買い物の便利さ」などで比較的高くなっています。

満足度と重要度の相関をみると、防災・防犯対策に関する項目は、満足度が低く重要度が高い傾向にあります。

表 居住地の生活環境の満足度・重要度（南部地域）

		項目	満足度	重要度
交通環境	①	幹線道路及び幹線道路への接続状況	74.6	84.9
	②	生活道路の安全性や利用のしやすさ	68.5	87.4
	③	バス等の公共交通の便利さ	50.1	79.4
施設の利便性	④	子どもの遊び場や身近な公園の利用のしやすさ	58.3	76.1
	⑤	保育園・認定こども園の利用のしやすさ	75.5	79.2
	⑥	教育施設（小・中・高校）の教育環境	69.2	85.0
	⑦	医療施設（病院・医院等）の利用のしやすさ	69.5	90.5
	⑧	福祉施設（老人福祉施設、障がい福祉施設等）の利用のしやすさ	64.6	82.5
	⑨	文化施設（図書館・公民館等）の利用のしやすさ	61.8	74.9
	⑩	スポーツ施設の充実度	54.3	72.8
居住環境	⑪	日当たり、風通しなどの居住環境	77.1	85.5
	⑫	買い物の便利さ	73.8	88.9
	⑬	下水道などし尿処理の方法	79.9	85.7
	⑭	ゴミ収集や処理の状況	77.4	88.3
	⑮	騒音、振動、悪臭など公害への対策	72.4	82.7
	⑯	美しい景観や町並みなどの状況	62.5	78.4
	⑰	自然の豊かさ	81.7	79.2
防災・防犯対策	⑱	地震・水害など自然災害への対策	66.5	90.5
	⑲	火災、延焼に対する安全対策	69.4	87.0
	⑳	犯罪などに対する安全対策	68.5	89.4
	㉑	交通事故に対する安全対策	68.3	87.0

※満足度、重要度を以下のように点数化し、それぞれ無回答を除いた形で、全回答の平均値を算出。

満足度：「満足」=100、「まあ満足」=75、「少々不満」=50、「不満」=25

重要度：「とても重要」=100、「やや重要」=75、「あまり重要ではない」=50、「重要ではない」=25

資料：「美濃市のまちづくり」に関するアンケート調査（令和4年度）

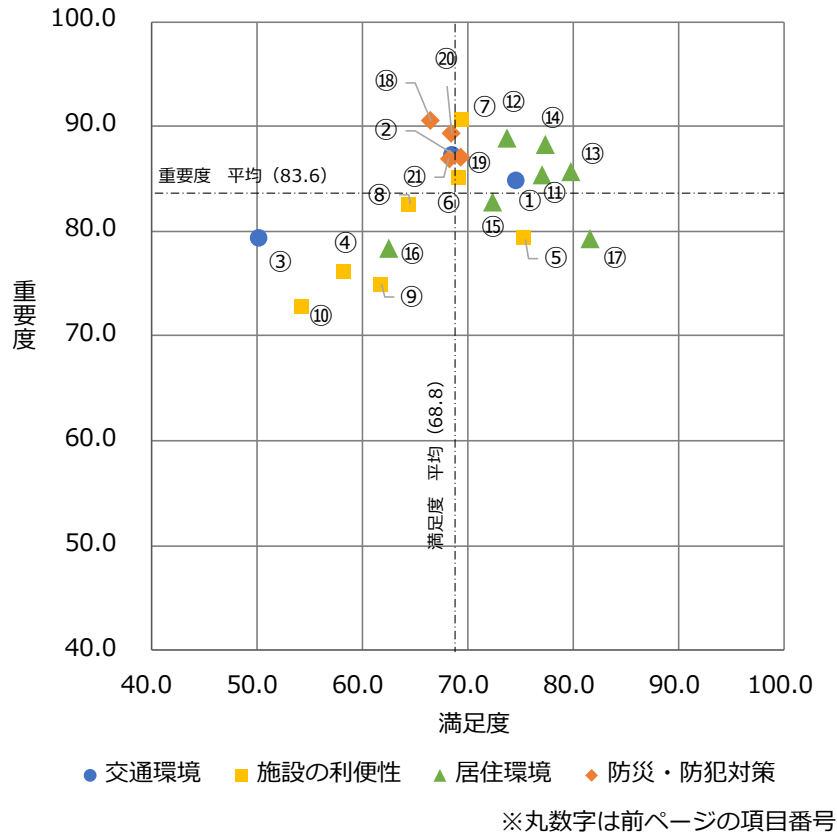
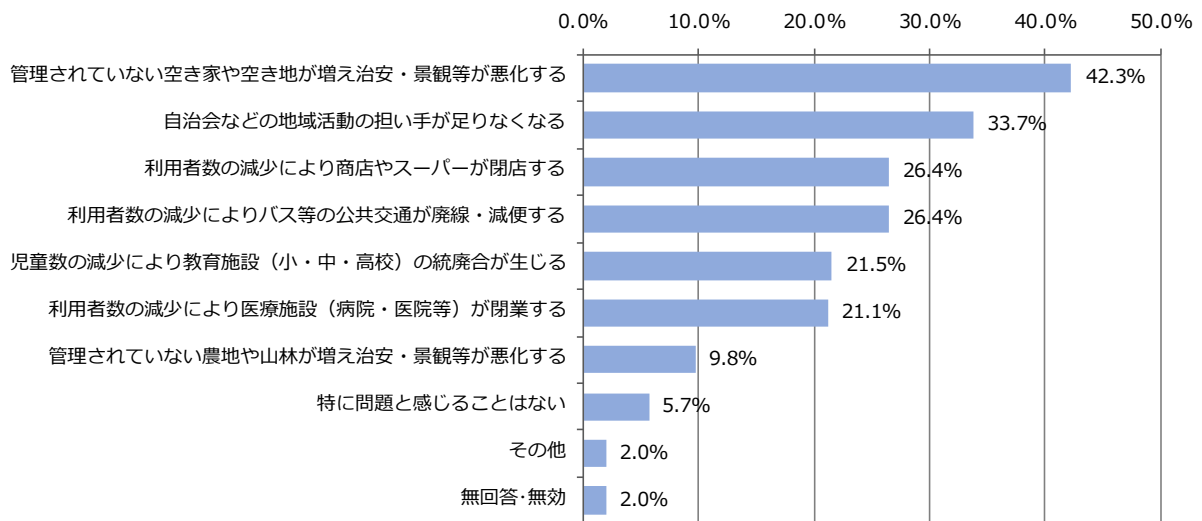


図 満足度と重要度の相関（南部地域）

資料：「美濃市のまちづくり」に関するアンケート調査（令和4年度）

南部地域の今後の人口減少による問題としては、「管理されていない空き家や空き地が増え治安・景観等が悪化する」（42.3%）が最も多く、次いで「自治会などの地域活動の担い手が足りなくなる」（33.7%）が多くなっています。



※ 2つまでの複数回答

図 今後の人口減少による居住地区での問題（南部地域）

資料：「美濃市のまちづくり」に関するアンケート調査（令和4年度）

2. 地域の特性と課題

地域の特性	課題
<ul style="list-style-type: none">■ うだつの上がる町並みなど、歴史的・文化的資源が多く残っています。■ 美濃インターチェンジ周辺は、広域交通の結節点として、利便性の高いエリアとなっています。■ 長良川や市街地周辺の里山など、豊かな自然が身近に残っています。	<ul style="list-style-type: none">■ 観光施設や飲食店などの店舗が少なく、賑わいを創出するまちづくりが必要です。■ 美濃インターチェンジを中心とした広域交通軸の整備や、商業を中心とした利便性の高い土地利用への誘導が必要です。■ 豊かな自然環境や良好な景観を、今後も保全・維持していくことが必要です。

第3章 西南部地域

1. 地域の現況

西南部地域は市の南西部に位置し、大矢田地区と藍見地区で構成されます。地域面積は1,750ha で市全体の約15%を占めます。

地域を東西に通過する(都)高富美濃線 [(主)岐阜美濃線] の両側に、計画的に整備された住宅地や工業地が位置しているほか、古くからの集落地が点在しています。

(1) 人口・世帯数

地域内の人口は、減少傾向が続いていますが、世帯数は増加傾向が続いています。高齢化率は、他の地域に比べ低いですが、本地域でも高齢化が進行しています。

表 西南部地域の人口・世帯数の推移及び年齢3区分別人口割合の推移

		平成22年	平成27年	令和2年
人口（人）		4,868	4,617	4,442
世帯数（世帯）		1,610	1,625	1,725
世帯あたり人員（人/世帯）		3.02	2.84	2.58
年齢3区分別人口（人）	～14歳	646	587	532
	15～64歳	3,171	2,790	2,488
	65歳～	1,051	1,234	1,414
	年齢不詳	0	6	8
年齢3区分別人口構成比（%） ※年齢不詳除く	～14歳	13.3	12.7	12.0
	15～64歳	65.1	60.5	56.1
	65歳～	21.6	26.8	31.9

資料：国勢調査

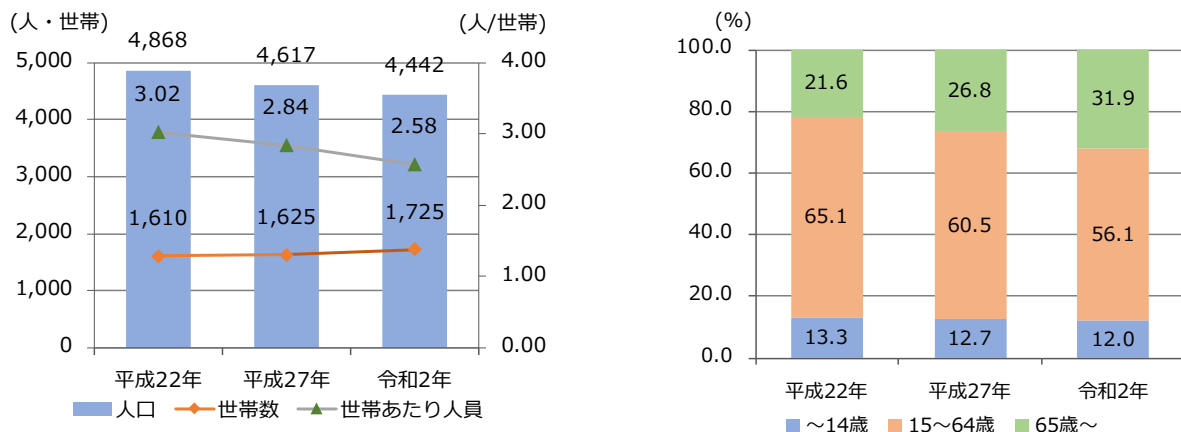


図 西南部地域の人口・世帯数の推移及び年齢3区分別人口割合の推移

資料：国勢調査

(2) 土地利用

本地域の土地利用の状況を見ると、山林が60%以上を占め、農地や水面などを合わせた自然的土地利用は、地域全体の80%近くを占めています。農地は、(都)高富美濃線〔(都)岐阜美濃線〕の南側や北部に点在し、山林は、天王山や誕生山など、住宅地や工業地などの後背に広がっています。

都市的土地利用は、宅地等が地域全体の約10%で、藍川団地やもみじが丘などの大規模な住宅地が整備されています。また、藍見地区の北側や美濃テクノパークなど、大規模な工業地が集積しています。

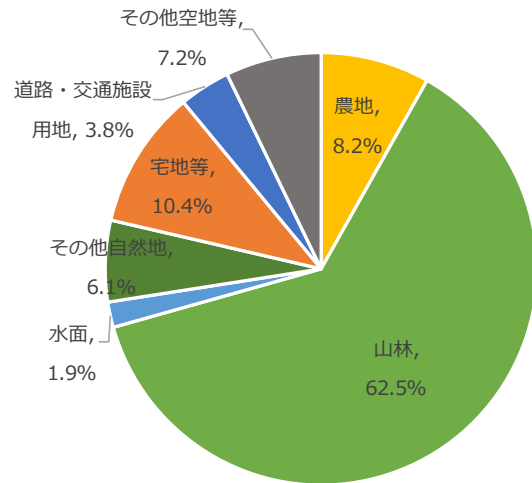


図 西南部地域の土地利用面積の割合
資料：令和5年度都市計画基礎調査

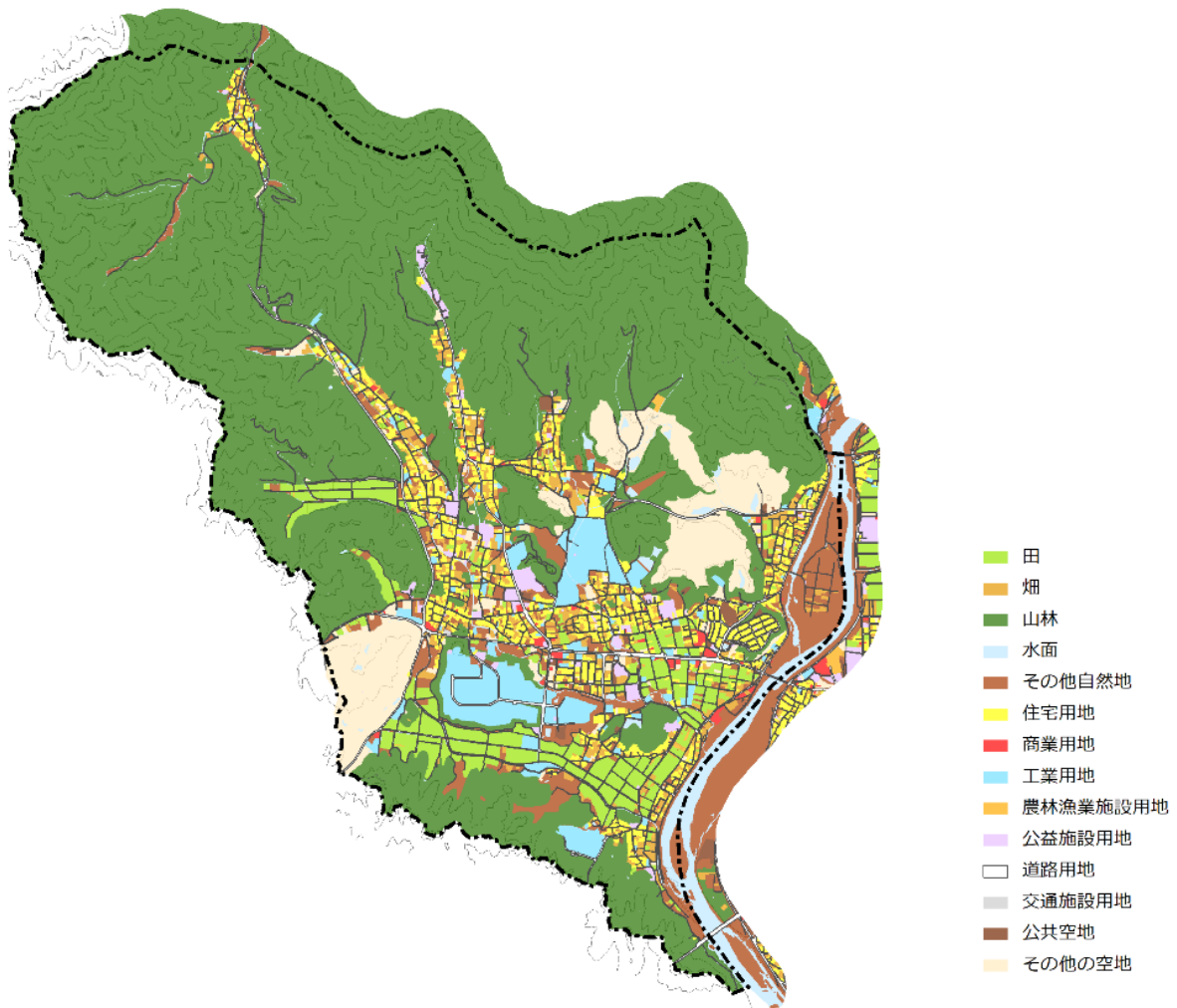


図 西南部地域の土地利用現況

資料：令和5年度都市計画基礎調査

(3) 主要施設

都市施設については、(都)高富美濃線 [(都)岐阜美濃線] や(都)上野大矢田線 [(一)上野関線] の広域交通軸と、(都)段西洞線 [(市)段・西洞線] や(都)下切坂田線 [(市)下切・坂田線] などの地域交通軸が、格子状に配置されています。また、住宅団地開発や土地区画整理事業に伴い整備された公園があるほか、長良川の中洲や大矢田神社周辺のヤマモミジ樹林などが潤いのある都市景観を創出しています。

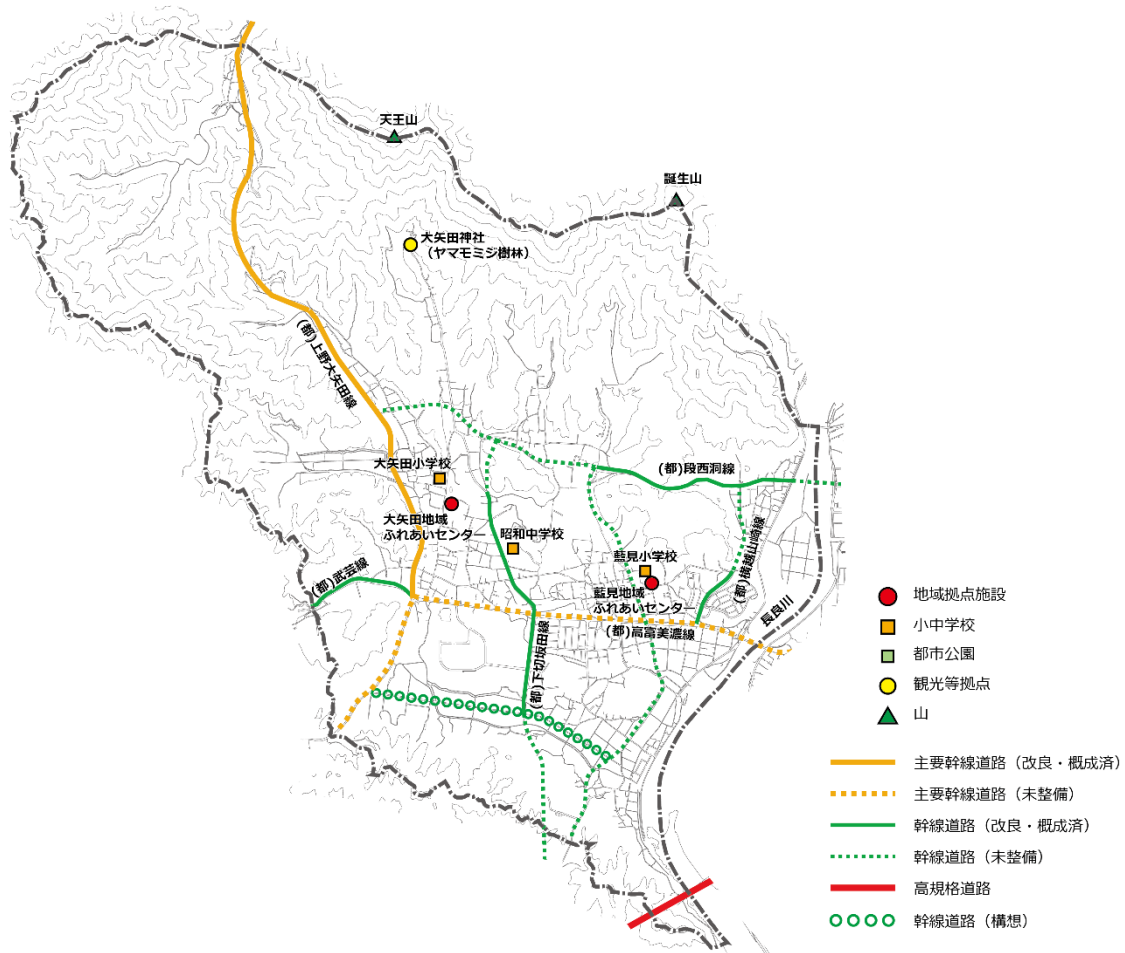


図 西南部地域の主要施設

(4) 市民意向

西南部地域の生活環境の満足度をみると、「自然の豊かさ」や「日当たり、風通しなどの居住環境」など、居住環境に関する項目が比較的高くなっています。逆に、「バス等の公共交通の便利さ」や「子どもの遊び場や身近な公園の利用のしやすさ」など、交通環境や施設の利便性などで満足度の低い項目がみられます。

生活環境の重要度では、「医療施設（病院・医院等）の利用のしやすさ」や「買い物の便利さ」などが高く、防災・防犯対策に関する項目も比較的高くなっています。

満足度と重要度の相関をみると、「医療施設（病院・医院等）の利用のしやすさ」は、重要度は非常に高いですが、満足度は低くなっています。

表 居住地の生活環境の満足度・重要度（西南部地域）

項目		満足度	重要度
交通環境	① 幹線道路及び幹線道路への接続状況	66.2	84.5
	② 生活道路の安全性や利用のしやすさ	62.8	87.2
	③ バス等の公共交通の便利さ	45.9	76.0
施設の利便性	④ 子どもの遊び場や身近な公園の利用のしやすさ	52.2	76.3
	⑤ 保育園・認定こども園の利用のしやすさ	73.3	77.8
	⑥ 教育施設（小・中・高校）の教育環境	68.0	83.1
	⑦ 医療施設（病院・医院等）の利用のしやすさ	63.9	93.2
	⑧ 福祉施設（老人福祉施設、障がい福祉施設等）の利用のしやすさ	61.5	86.4
	⑨ 文化施設（図書館・公民館等）の利用のしやすさ	59.0	73.4
	⑩ スポーツ施設の充実度	52.8	69.2
居住環境	⑪ 日当たり、風通しなどの居住環境	80.9	85.9
	⑫ 買い物の便利さ	68.6	90.5
	⑬ 下水道などし尿処理の方法	79.6	85.6
	⑭ ゴミ収集や処理の状況	77.7	87.5
	⑮ 騒音、振動、悪臭など公害への対策	75.6	84.7
	⑯ 美しい景観や町並みなどの状況	62.5	74.1
	⑰ 自然の豊かさ	82.3	81.5
防災・防犯対策	⑱ 地震・水害など自然災害への対策	68.0	89.8
	⑲ 火災、延焼に対する安全対策	66.9	88.5
	⑳ 犯罪などに対する安全対策	64.8	89.6
	㉑ 交通事故に対する安全対策	62.3	89.9

※満足度、重要度を以下のように点数化し、それぞれ無回答を除いた形で、全回答の平均値を算出。

満足度：「満足」=100、「まあ満足」=75、「少々不満」=50、「不満」=25

重要度：「とても重要」=100、「やや重要」=75、「あまり重要ではない」=50、「重要ではない」=25

資料：「美濃市のまちづくり」に関するアンケート調査（令和4年度）

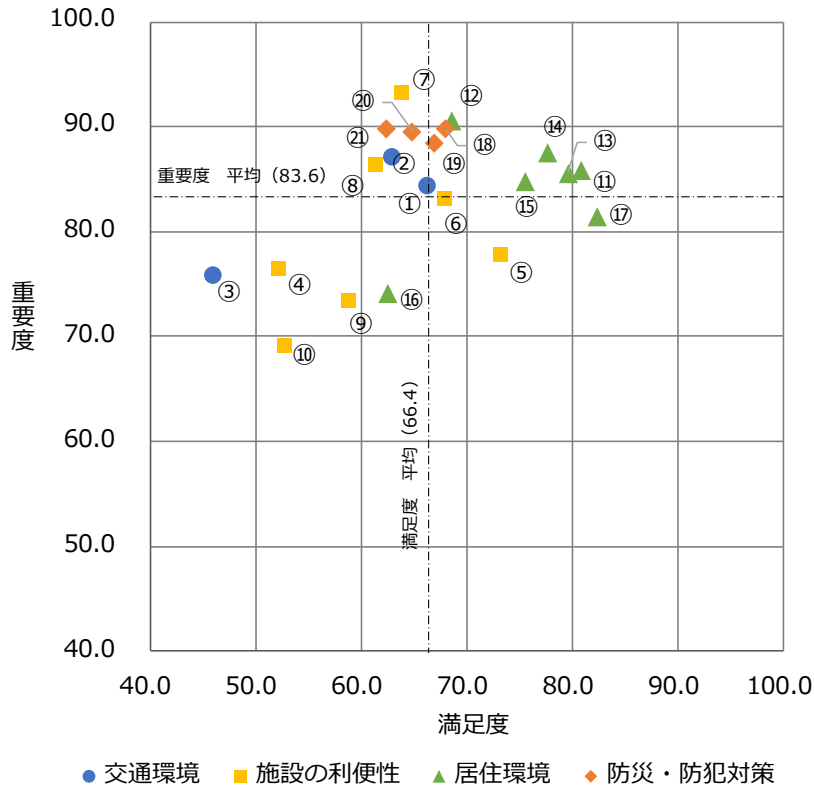
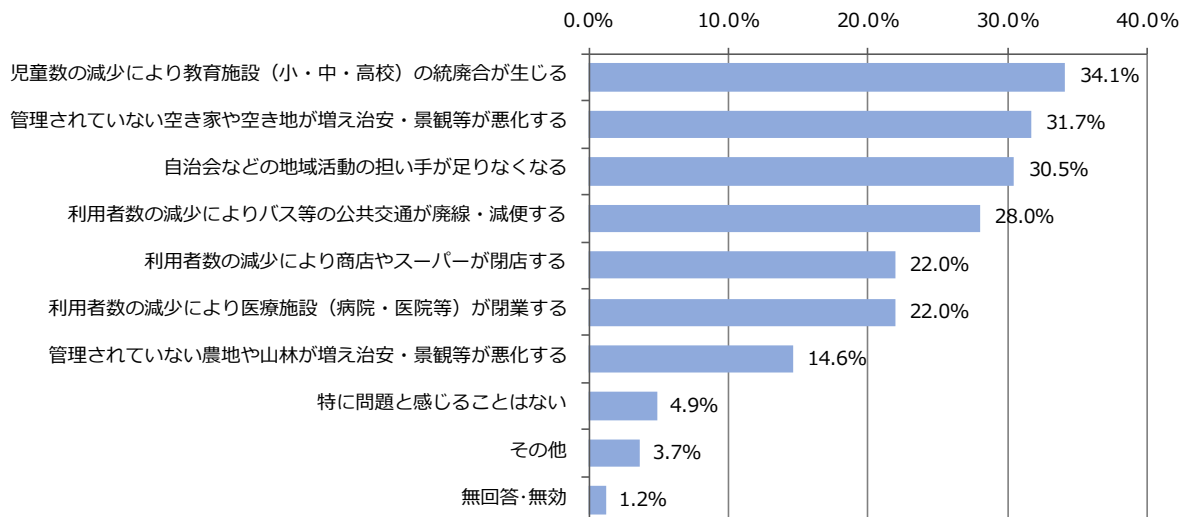


図 満足度と重要度の相関（西南部地域）

資料：「美濃市のまちづくり」に関するアンケート調査（令和4年度）

南部地域の今後の人口減少による問題としては、「児童数の減少により教育施設（小・中・高校）の統廃合が生じる」（34.1%）が最も多く、次いで「管理されていない空き家や空き地が増え治安・景観等が悪化する」（31.7%）が多くなっています。



※ 2つまでの複数回答

図 今後の人口減少による居住地区での問題（西南部地域）

資料：「美濃市のまちづくり」に関するアンケート調査（令和4年度）

2. 地域の特性と課題

地域の特性	課題
<ul style="list-style-type: none">■ 美濃インターチェンジに近接する特性を活かし、大規模な工業地が整備されています。■ 古くからの集落地や、藍川やもみじが丘などの住宅地では、みどりゆたかな良好な住環境が維持されています。■ 大矢田神社や天王山一帯には、歴史的資源や良好な自然景観が多く残っています。	<ul style="list-style-type: none">■ 工業地の利便性を高めるため、美濃インターチェンジを中心とした広域交通ネットワークの形成が必要です。■ 工業地と隣接する住宅地も多いことから、それぞれが調和した適正な土地利用が必要です。■ 歴史的資源や自然環境を、今後も保全・維持するための取組が必要です。

第4章 北部地域

1. 地域の現況

北部地域は市の北部に位置し、郡上市と隣接する長良川上流域の洲原地区と、板取川流域の下牧地区、上牧地区で構成されます。地域面積は7,822ha で市全体の約67%を占めます。

本地域は、長良川や板取川などの河川沿いに集落が形成され、その周囲に瓢ヶ岳や天王山、鶴形山などの山林が連なります。

(1) 人口・世帯数

地域内の人口は、減少傾向が続いており、令和2年（2020）には5千人を割り込んでいます。高齢化率は、他の地域に比べ非常に高く、令和2年（2020）には50%近くに達しています。

表 北部地域の人口・世帯数の推移及び年齢3区分別人口割合の推移

		平成22年	平成27年	令和2年
人口（人）		6,125	5,310	4,738
世帯数（世帯）		2,007	1,892	1,782
世帯あたり人員（人／世帯）		3.05	2.81	2.66
年齢3区分別人口（人）	～14歳	471	418	375
	15～64歳	3,568	2,820	2,176
	65歳～	2,086	2,071	2,181
	年齢不詳	0	1	6
年齢3区分別人口構成比（%） ※年齢不詳除く	～14歳	7.7	7.9	7.9
	15～64歳	58.3	53.1	46.0
	65歳～	34.1	39.0	46.1

資料：国勢調査

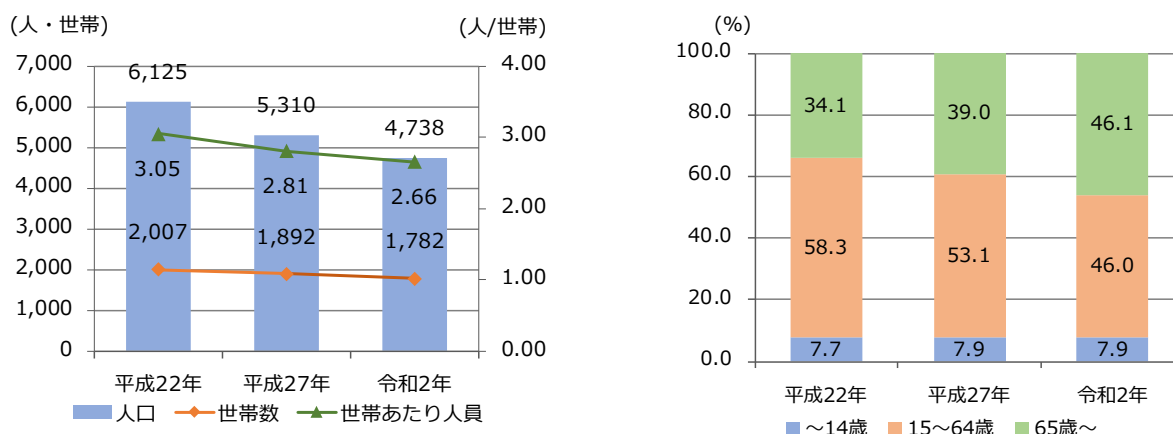


図 北部地域の人口・世帯数の推移及び年齢3区分別人口割合の推移

資料：国勢調査

(2) 土地利用

本地域の土地利用の状況を見ると、山林が90%近くを占めており、農地や水面などを合わせた自然的土地利用は、地域全体の95%に達しています。農地は、長良川や板取川沿いに分布し、農業集落地として営農環境と居住環境が調和しています。

都市的土地利用は、宅地等が地域全体の約3%で、長瀬地区の一部で市街地が形成されています。工業地としては洲原地区の一部に工場集積があるほか、地場産業を中心とした工場が地域に点在しています。

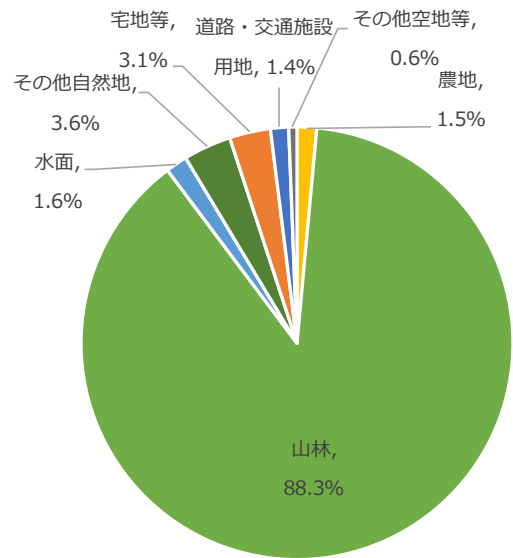


図 北部地域の土地利用面積の割合
資料：令和5年度都市計画基礎調査

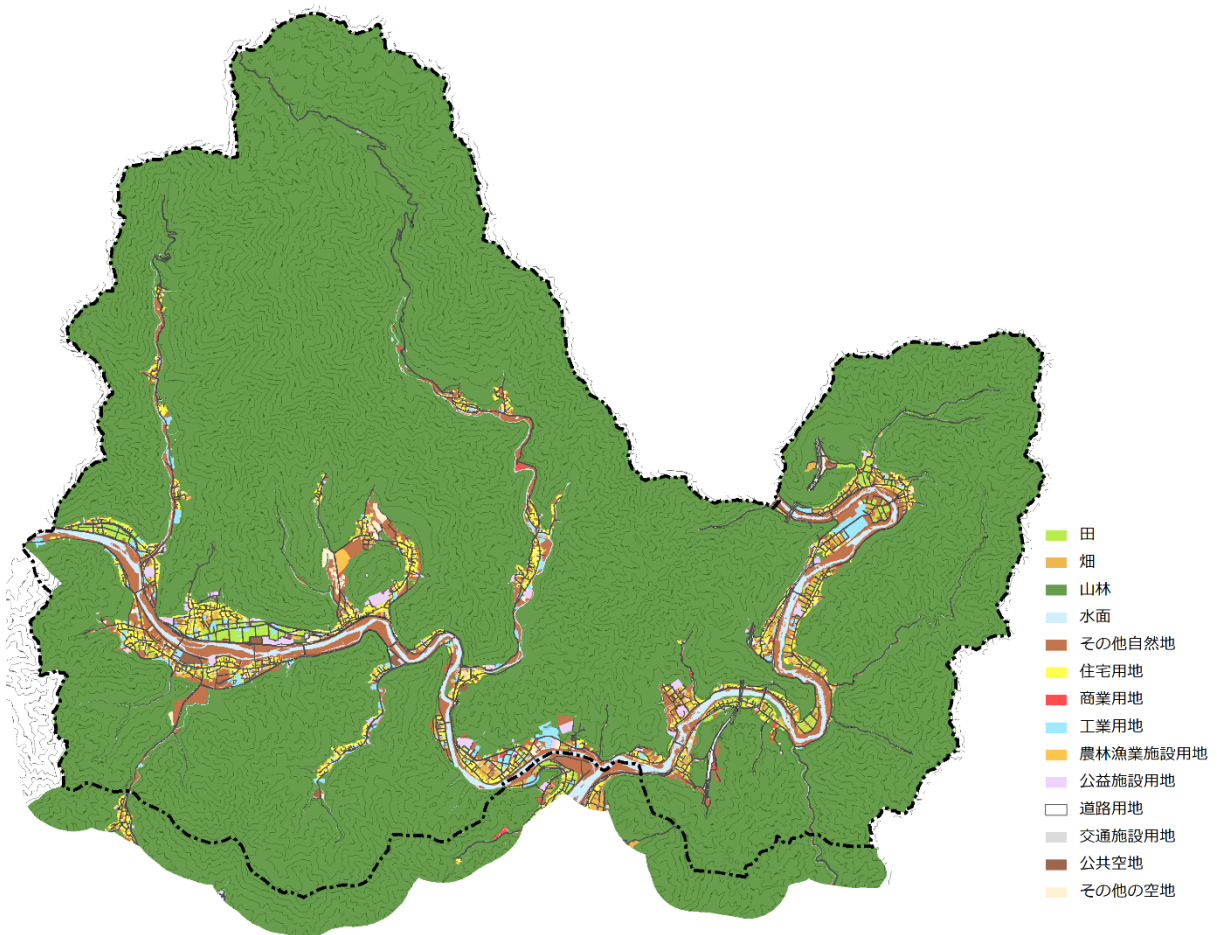


図 北部地域の土地利用現況
資料：令和5年度都市計画基礎調査

(3) 主要施設

都市施設については、東海北陸自動車道や(都)岐阜高岡線 [(国)156号] などの広域交通軸が洲原地区を南北に通過し、(都)洞戸美濃線 [(主)美濃洞戸線] が板取川沿いに通っています。都市公園として神洞ほたるの里公園が整備されているほか、山林や河川などの自然緑地に恵まれ、奥長良川県立自然公園に含まれる片知溪谷や、長良川でのラフティングなど都市部とは異なるレクリエーション空間を創出しています。また、本市のアイデンティティである美濃和紙の生産地として独自の風情や景観を形成しており、美濃和紙の里会館を拠点として地域の活性化が図られています。

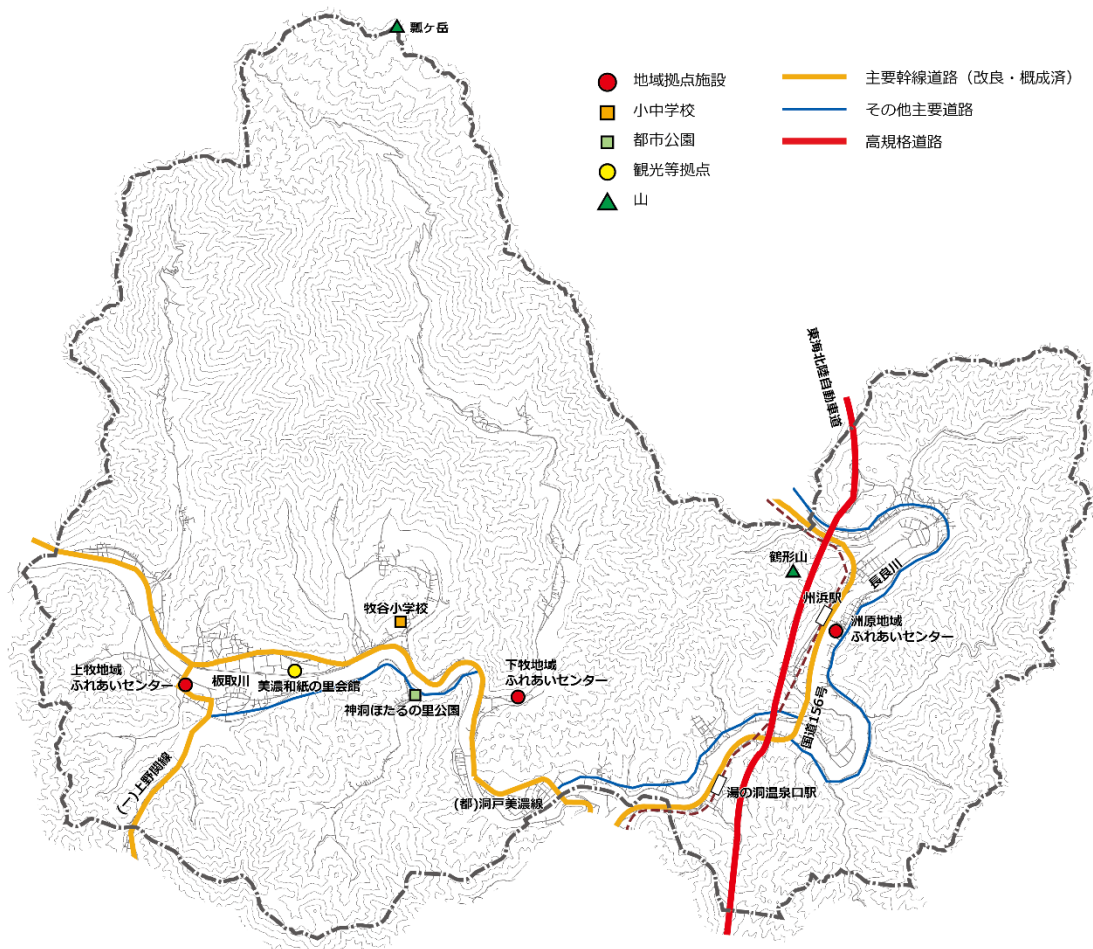


図 北部地域の主要施設

(4) 市民意向

北部地域の生活環境の満足度をみると、「自然の豊かさ」や「ゴミ収集や処理の状況」などが比較的高くなっています。逆に、「バス等の公共交通の便利さ」や「買い物の便利さ」などの満足度は非常に低く、項目によって大きな差が生じています。

生活環境の重要度では、「買い物の便利さ」が非常に高くなっているほか、防災・防犯対策に関する項目も比較的高くなっています。

満足度と重要度の相関をみると、「買い物の便利さ」は、重要度が非常に高いのに対し満足度は非常に低くなっており、改善が望まれています。

表 居住地の生活環境の満足度・重要度（北部地域）

項目		満足度	重要度
交通環境	① 幹線道路及び幹線道路への接続状況	58.5	84.8
	② 生活道路の安全性や利用のしやすさ	55.7	87.8
	③ バス等の公共交通の便利さ	40.6	80.1
施設の 利便性	④ 子どもの遊び場や身近な公園の利用のしやすさ	44.6	76.3
	⑤ 保育園・認定こども園の利用のしやすさ	71.5	79.7
	⑥ 教育施設（小・中・高校）の教育環境	61.1	82.9
	⑦ 医療施設（病院・医院等）の利用のしやすさ	61.2	90.2
	⑧ 福祉施設（老人福祉施設、障がい福祉施設等）の利用のしやすさ	60.8	83.7
	⑨ 文化施設（図書館・公民館等）の利用のしやすさ	57.0	69.3
	⑩ スポーツ施設の充実度	56.5	69.1
居住環境	⑪ 日当たり、風通しなどの居住環境	70.3	86.9
	⑫ 買い物の便利さ	40.7	93.0
	⑬ 下水道などし尿処理の方法	69.8	84.8
	⑭ ゴミ収集や処理の状況	77.0	86.6
	⑮ 騒音、振動、悪臭など公害への対策	71.0	84.7
	⑯ 美しい景観や町並みなどの状況	62.5	75.0
	⑰ 自然の豊かさ	83.0	80.7
防災・ 防犯対策	⑱ 地震・水害など自然災害への対策	53.1	91.4
	⑲ 火災、延焼に対する安全対策	65.1	88.1
	⑳ 犯罪などに対する安全対策	64.1	90.7
	㉑ 交通事故に対する安全対策	61.6	89.1

※満足度、重要度を以下のように点数化し、それぞれ無回答を除いた形で、全回答の平均値を算出。

満足度：「満足」=100、「まあ満足」=75、「少々不満」=50、「不満」=25

重要度：「とても重要」=100、「やや重要」=75、「あまり重要ではない」=50、「重要ではない」=25

資料：「美濃市のまちづくり」に関するアンケート調査（令和4年度）

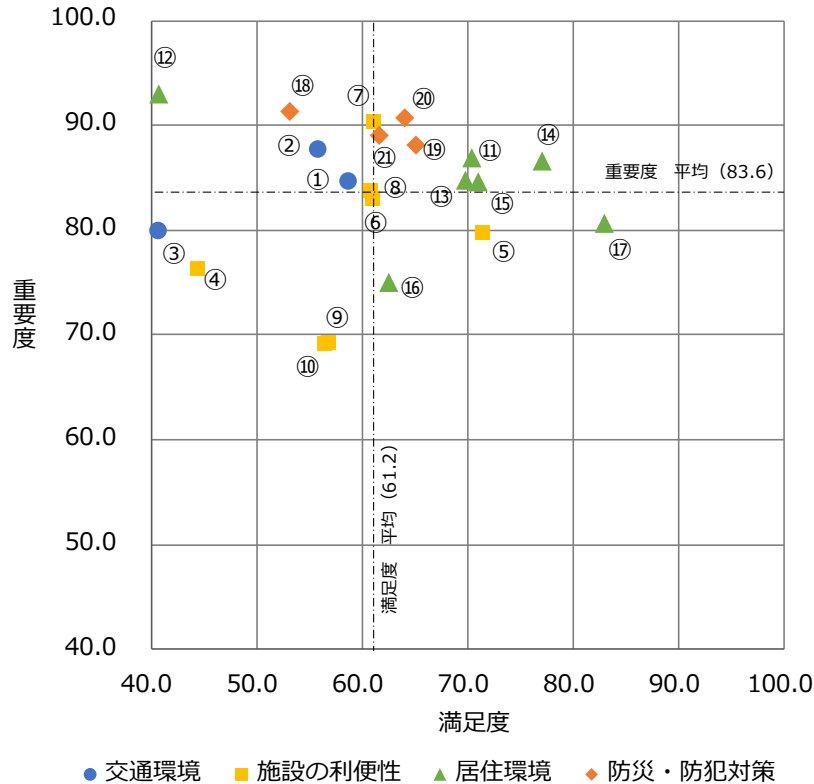
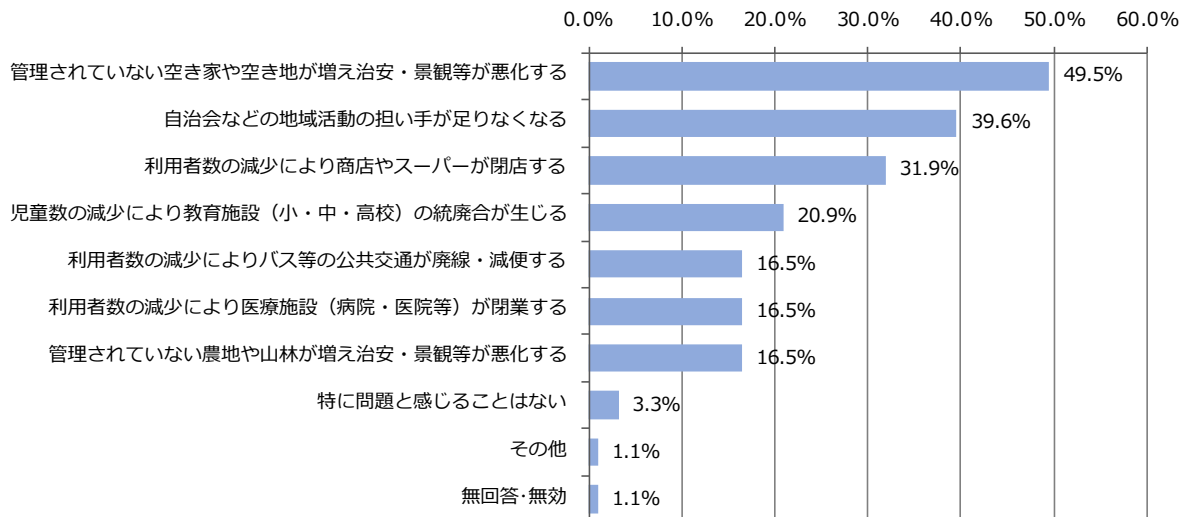


図 満足度と重要度の相関（北部地域）

資料：「美濃市のまちづくり」に関するアンケート調査（令和4年度）

北部地域の今後の人口減少による問題としては、「管理されていない空き家や空き地が増え治安・景観等が悪化する」（49.5%）が最も多く、次いで「自治会などの地域活動の担い手が足りなくなる」（39.6%）が多くなっています。



※ 2つまでの複数回答

図 今後の人口減少による居住地区での問題（北部地域）

資料：「美濃市のまちづくり」に関するアンケート調査（令和4年度）

2. 地域の特性と課題

地域の特性	課題
<ul style="list-style-type: none">■ 美濃和紙などの伝統産業が継承されているほか、山林や河川などの豊かな自然環境が残されています。■ 長良川沿いや山間地域には、多くの観光・レクリエーション資源が点在しています。	<ul style="list-style-type: none">■ 伝統産業や自然環境を、今後も保全・維持するための取組が必要です。■ 観光客等訪れやすいよう、交通環境の向上が必要です。